

令和7年度

# 地域共生ワークショップ開催報告

主催：函館市・北海道教育大学函館校地域協働推進センター

開催日時：1回目 令和7年10月13日（月・祝）10：00～15:30

2回目 令和7年10月26日（日）14：00～15:30

開催場所：北海道教育大学函館校（函館市八幡町1番2号）

## 開催概要

令和7年10月13日(月・祝)、10月26日(日)、北海道教育大学函館校で中学生・高校生・大学生を対象とした「地域共生ワークショップ」を開催しました。

本事業は、第4次函館市地域福祉計画に基づき、これからの地域社会を担う若い世代に、地域の現状や向き合い方、共生社会について考えてもらうことで、将来の地域共生社会の実現に向けた市民意識の醸成を図ることを目的に、令和5年度からは北海道教育大学函館校との共催により実施しています。

今年度は「多様な人とともに生きる」をテーマに、函館市の現状や地域での実践活動についての講話、共生に関するグループワークを行いました。

1回目は、北海道国際交流センター事務局長 池田誠さんから、多文化共生、異文化交流に関する話のほか、障がいや貧困など困難を抱える人が共に支え合う活動、多様性が尊重される地域共生社会についてお話いただき、その後のグループワークでは「多様な人が暮らす共生シェアハウス」を想定し、国籍や年齢、宗教、障がい、経済状況等様々な背景や困難さを抱えている住民が共同生活を送るうえで表出する問題やその解決方法等について話し合いました。その際、まずは自分たちでそれぞれの住民の属性についてインターネットの情報から調べるとともに、オブザーバーとして参加した北海道国際交流センターの池田事務局長や大学の先生、市職員へ質問しアドバイスをもらうなど、学びを深めました。そのうえで、それぞれの住民の立場に立ち、具体的な生活上の困難さや共同生活を送るうえでの調整方法、そして課題の解決方法などをファシリテータ役の教育大生を中心にグループの中で意見を出し合いました。

2回目は石狩郡当別町にある社会福祉法人ゆうゆう代表理事 大原 裕介さんから法人が実践する共生のまちづくりや自身の活動のきっかけについて大学時代のエピソードを交えた話をいただき、その後、参加者からの「共生とは何か」「共生社会を実現するために自分たちができることは何か」といった質疑応答がありました。

2回のワークショップを通じて参加者の生徒、学生には、「多様な人とともに生きるために大切なことは何か」、「幸せな地域になるためには何が必要か」について考えてもらいました。(意見は p5 にまとめています。)

### ○1回目参加者

中学生5名、高校生19名、大学生18名 合計42名

### ○2回目参加者

中学生4名、高校生15名、大学生17名 合計36名



## 実施内容

### 【1日目】

区 分	時 間	内 容
開会	10:00	開会の挨拶 北海道教育大学函館校地域協働推進センター長 奥平 理准教授
オリエンテーション	10:05	趣旨、ワークショップの概要説明
講義①	10:10	「地域共生社会を目指して」(函館市)
グループワーク①	10:20	アイスブレイク、グループワークの進め方に関する講義 進行:北海道教育大学函館校 小林 真二教授
休 憩	11:10	
講義②	11:20	「地域共生社会啓発ワークショップ～SDGsの視点から」 北海道国際交流センター 池田 誠事務局長
休憩	12:15	
グループワーク②	13:00	「多様な人が暮らす共生シェアハウスについて」 進行:北海道教育大学函館校 小林 真二教授
講評	15:20	北海道教育大学函館校 山川 卓先生
閉会	15:30	

### 【2日目】

区 分	時 間	備 考
開会	14:00	開会の挨拶 函館市保健福祉部地域福祉課 伊藤 寛課長
特別講義	14:05	社会福祉法人ゆうゆう代表理事 大原 裕介氏
講評	15:25	北海道教育大学函館校 金 鉉善先生
閉会	15:30	

## グループワークで話し合われた内容

「多様な人が暮らす共生シェアハウス」に暮らす国籍・宗教・年齢・障がい・経済的事情の異なる4人の住民の視点に立ち、生じそうな問題とその解決方法について、中学生から大学生が8つのグループに分かれて話し合いました。進行は、北海道教育大学函館校 小林真二教授、各グループのファシリテータは小林教授のファシリテーション講座を受講した学生が努めました。

### ☆ Aグループ

課題「4人が共に食事を楽しむには」

- ・週1回食べたい食べ物を持ち寄ってバイキングをする。
- ・宗教や病気による制限を気にすることなく、食べれるものを一緒に食べることで一体感が生まれる。
- ・食事を通じた交流の時間を長くにとって相互理解を深める。



### ☆ Bグループ

課題「さくらさんの孤独を防ぐための方策」

- ・特別扱いされたくない→孤立化の恐れ。
- ・おおらかな性格の住民にメンターになってもらう。
- ・負担のない家事分担と役割分担によりお互いに支え合える相談し合える環境をつくる。



### ☆ Cグループ

課題「お風呂や介助など手助けが必要な場合の対応について」

- ・助けたい気持ちはあっても本人は迷惑かも。
- ・自分らしく自立した生活がしたい気持ちを尊重する。
- ・段差をなくす住宅改修やお風呂用車椅子などを活用し、本人が自分でできることを増やす。
- ・自分でできることは自分でできるようにする。



### ☆ Dグループ

課題「生活リズムが合わず交流の時間がとれない」

- ・文字で書き留めるなど交換日記、カレンダーなどでスケジュール管理。
- ・朝活や食事会を通じて交流。
- ・お互いにやって欲しくないこと、やって欲しいことなどを相互理解。
- ・体操や料理など自分の得意なことを教える。



### ☆ E グループ

課題「住民の考え方や価値観の衝突」

- ・週1回の食事会で作るミッション。食事を通じた衝突の回避。
- ・自分の出来ることを中心に買い出し、調理、飾りつけなどの役割を持つ。
- ・それぞれの国の料理を作ったり、食事中にそれぞれの1週間の出来事についておしゃべりする。
- ・食事を通じて互いを知ることができる。



### ☆ F グループ

課題「自分のことも相手のことも理解するにはどうしたらいいか」

- ・日常生活で問題が生じそうなことをルール決めする。
- ・ルールを決めるためのルールを作る。
- ・ツールを利用して自分が何をしているのか自己開示する。
- ・普段のコミュニケーションで言いたいことも言える環境にする。



### ☆ G グループ

課題「生活時間が異なることから生じる騒音問題」

- ・時間でそれぞれの住民にテレビ権を付与。
- ・生活時間が異なるため、自由にできる時間とそうではない時間がある。
- ・音量などのルールは話し合って解決する。



### ☆ H グループ

課題「お風呂問題」

- ・障がいがありお風呂に入るのが大変な人→段差の解消や風呂用車椅子の利用、デイサービスの利用など環境を整える。
- ・お風呂の順番、時間などルール作りをする。
- ・ホワイトボードを活用。
- ・本人の意思や希望を尊重すること。話合いの場を設け、助け合う関係づくりが大切。



アンケート「多様な人とともに生きるために大切なことは何か」

人の個性を認め合うのは当たり前で、その個性などをどう生かすかが大切になってくると思う。(料理が好きだからみんなで作るとか、スポーツ選手だからとか。)(中学生)
一番大切に考えることは、お互いを知ってもらうことだと思います。伝えることで理解してもらえらることを増え、共生しやすくなると考えたからです。(中学生)
函館市内の人たちと互いに知ること。理解すること。(中学生)
自分について理解し、それを周囲に伝える。他者のことを受け入れる。話し合い。(中学生)
自分と同じにするのではなく、互いに違いを認めることが大切だと思った。なので、多少の我慢も必要だと思った。(高校生)
隣にいる人の個性を理解して、自分ができるところを見つけた上でその人が困っている点を何かしらの形で補えるよう考えること。(高校生)
尊重すること、がまんしないこと、アイデアをたくさん出すこと、コミュニケーションをとることだと思います。(高校生)
まずは自分自身を理解すること、その上で他者についても耳をかたむけ、理解しようとする。自分のことを押し付けるだけではなく、相手のことも知ろうとすること(高校生)
どんな違いがあっても、みんな同じ人間で尊重されるべき存在であるということを忘れず、互いを理解し、受容することが大切。(高校生)
思いやりの心(高校生)
互いに認め合うこと。(高校生)
自己と他者を尊重する心。他者を受け入れること(高校生)
多様な人を理解することを前提として相手の立場になることが大切だと一番感じました。起こりうる事象を考え、協力して解決する能力を身につけることも大切だと思いました。(高校生)
自己開示、他者理解のためには、まず自分を理解することから始まること(高校生)
お互いを理解し合って、対立しないこと。(高校生)
自ら価値観を理解しようとする前向きな姿勢になること。(高校生)
自分の良さを理解し、他人への理解を深め、これからの未来をより良くするために考えること。(高校生)
ルールを決める。共に過ごす時間をつくる。色々な文化を楽しむ(高校生)
まずは地域の近所の人との交流を深める。(高校生)
相手の文化や背景を否定せず受け入れる姿勢(高校生)
相手を理解する努力をすること(高校生)
自分を知ってもらうための自己開示、相手を知るためのコミュニケーションの二本柱。またそれらを容易にする環境作り。(高校生)
背景や価値観がそれぞれ異なっていることも前提としたコミュニケーション。(大学生)
価値観を共有すること。(大学生)

互いにサポートし合い理解し合うこと、認め合うこと(大学生)
互いへのリスペクト、理解を深めること。自分が使える制度・サービスを知ること。(大学生)
お互いに寛容であること(大学生)
Communication、相手のことを理解しようとする意識(大学生)
お互いのことを理解するとともに自分のことを我慢せずぎせいにしないことだと思う。(大学生)
歩みようとする意識  自分のことを客観視すること(大学生)
共通のルールを設けながらも個人を尊重、そして自らも開示していくこと(大学生)
外国人の増加や多様な価値観が認められるようになった現代において、より他者を理解することが重要になったと思った。そのためには、理解をするのは前提として意見を押しつけないことが重要だと思う。(大学生)
自分のできること、相手に求めることを伝え合うこと。それを言い合えるような環境づくり(大学生)
自分とはまったく違う境遇、特性の人がたくさんいるということをしっかり理解し、異なる考え方も受け入れようとする。(大学生)
お互いが理解し合うこと、特に否定しないことが大切だと思う。(大学生)
相互理解と交流の場づくり(大学生)
互いの個性を尊重し、活かし合おうとすること、その姿勢。(大学生)
お互いの価値観を受けいれつつも自我を消しすぎない(大学生)
お互いの文化について排他的になるのではなく、歩みよること(大学生)
多文化理解、多様な人への理解、知識、自分の在り方(大学生)

## アンケート「幸せな地域になるためには何が必要か」

人の良さ・地域の良さを見つけること。(中学生)
管理する側が合理的な意見で作るのではなく、ニーズ、それぞれの人の課題(高齢者とか、うつ病とか)も応えて解決するための対話。(中学生)
理解。(中学生)
愛と協力。(中学生)
自分とちがう意見を持っていても否定しないことや、色々な立場の人がいるというのを理解すること。(高校生)
自分と他者を認め合い、リスペクトの心を忘れないこと。(高校生)
前は、お互いを理解し合うことが大切だと思いましたが、今回はそのために自身の見方を変えることも大切だと思直しました。心から幸せな地域共生を願い考え続けたいと思いました。(高校生)
「他人のいいところ探しをする」ことで違和感をポジティブに考えられるようになること。(高校生)
あたり前を疑うという視点が自分にとってしっくりきた。現存の制度・サービスがなぜ存在するのか、どうすれば本人のニーズに結びつか、一人ひとりが自分達の意見を恐れず議論していくことの重要性和可能性を感じた。(高校生)
人と人が理解することが必要だと思う。(高校生)
全員が幸せになり、社会が回るシステム(高校生)
多世代・多様な人々との交流が必要だと感じた。(高校生)
もっと理解してもらうことが大切と思った(高校生)
お互いの良いところを見つけること。見つけるためにも関わる機会があること。(高校生)
みんなが共存してだれも我慢しないで意見を言いあえる場所(高校生)
良いところを活かせる地域になること。(高校生)
共に生きる、楽しむことは何かを考え続けること。(高校生)
ケアリングの考え方が大切だと感じました。(高校生)
考え続けること。(大学生)
一人一人のニーズに目を向けること。ヒエラルキー(ピラミッド型)ではなく、輪を重ねていくことが対等な支え合いの関係をつくること。(大学生)
一人一人が自分の考え、気持ちに自信を持つこと。違いを認め合うこと。(大学生)
相手へのリスペクトの気持ち、「できるところ」への着目。(大学生)
長い時間をかけて話しあいながら進めること(大学生)
さまざまな人と関わっていく中で、できないことよりもできることに目を向けていく。(大学生)
互助, 共助(大学生)
地域の人々を分けない取り組み。さまざまな立場の人の意見を聞き、何が必要なのか考えること。いいところ探し。(大学生)

お互いの考え, 求めていることが何かを話し合う場をつくることが必要だと思った。(大学生)
固定概念にとらわれず人に寄りそうこと。(大学生)
みんなが納得できること(大学生)
互いに助け合い, 支え合う関係性(大学生)
一人ひとりの意見をきいて, むげにしないことが大切だと思った。(大学生)
あらゆる属性・特徴を持つ人が双方向的なかかわりをもてる場所があること。「その人」という当事者本人はどうなのかを問い続けること。(大学生)
互いの気持ちや考えを伝え合い, 汲むこと。(大学生)
いまは何でもルールをつくりがちだけど, 作らずに, 主体的に考えてみることも大事だと思った(大学生)
大原さんの令和では個性などと言っているが, 最終的には統合しなければならないという言葉が印象に残った。幸せな地域になるには個性をコミュニケーション等により理解・尊重し, すりあわせを行いながら社会を形成する必要があると思う(大学生)

## 参加者アンケート結果

### 【1】あなたについて教えてください

・属性

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
中学生	4	9.8%	4	11.1%
高校生	19	46.3%	15	41.7%
大学生	18	43.9%	17	47.2%
計	41	100.0%	36	100.0%

・参加を決めた理由(複数回答)

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
地域共生社会について興味があるため	22	33.8%	25	48.1%
地域探求活動の参考とするため	13	20.0%	8	15.4%
他の学校の参加者との交流に興味があるため	12	18.5%	7	13.4%
大学の雰囲気を経験したかったため	7	10.8%	5	9.6%
その他	11	16.9%	7	13.5%
計	65	100.0%	52	100.0%

### 【2】今回のワークショップを何で知りましたか。(複数回答)

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
市の広報・SNS・HP	5	10.2%	4	9.1%
学校の先生からの紹介	28	57.1%	26	59.1%
紙のチラシ・ポスター	11	22.5%	9	20.5%
新聞報道	0	0.0%	0	0.0%
友人・知人・家族からの声かけ	4	8.2%	4	9.1%
その他	1	2.0%	1	2.3%
計	49	100.0%	44	100.0%

### 【3】今回のワークショップに参加する前、「地域共生社会」についてどの程度知ってましたか？

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
聞いたことがあり、意味も知っていた	24	59.0%	32	90%
聞いたことはあるが、意味は知らなかった	16	39.0%	4	10%
聞いたことがなかった	1	2.0%	0	0%
計	41	100.0%	36	100.0%

**【4】今回のワークショップを通じて、「地域共生社会」への理解度はどの程度深まりましたか？**

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
深まった	37	90.2%	32	88.9%
少し深まった	4	9.8%	4	11.1%
どちらとも言えない	0	0.0%	0	0.0%
あまり深まらなかった	0	0.0%	0	0.0%
深まらなかった	0	0.0%	0	0.0%
計	41	100.0%	36	100.0%

※回答した理由の自由記述は別紙のとおり

**【5】これまで、地域活動(町会やボランティア活動など)へ参加した経験はありますか。**

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
経験したことがある	35	85.4%	32	88.9%
経験したことはない	6	14.6%	4	11.1%
計	41	100.0%	36	100.0%

**【6】今回のワークショップを通じて、「地域活動」へ参加してみたいと思いませんか。**

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
ぜひ参加してみたい	21	51.2%	30	86.0%
機会があれば参加してみたい	20	48.8%	4	11.0%
どちらとも言えない	0	0.0%	0	0.0%
参加したくない	0	0.0%	1	3.0%
計	41	100.0%	35	100.0%

**【7】今後、地域共生社会に関して、どのようなことについて学びたいですか。(複数回答可)※2回目のみ**

	回答数	割合
地域における障がい者の課題について	22	30.0%
地域における子どもの課題について	25	30.0%
地域におけるLGBTQなど(性的マイノリティ)	11	10.0%
地域における多文化共生※について	24	30.0%
その他	2	0.0%
計	82	100.0%

**【8】ワークショップ全体に関する満足度について教えてください。**

	1回目		2回目	
	回答数	割合	回答数	割合
とても満足した	34	82.9%	31	86.1%
満足した	6	14.6%	4	11.1%
普通	1	2.4%	1	2.8%
あまり満足しなかった	0	0.0%	0	0.0%
満足しなかった	0	0.0%	0	0.0%
計	41	100.0%	36	100.0%

**【9】次回も地域共生ワークショップに参加したいですか。※2回目のみ**

	回答数	割合
参加したい	34	97.1%
参加したくない	0	0.0%
どちらとも言えない	1	2.9%
計	35	100.0%

**【10】今回のワークショップに関する感想や意見などがあれば、どのようなことでもいいので教えてください。**

別紙のとおり

別紙 自由記述

【4】今回のワークショップを通じて、「地域共生社会」への理解度はどの程度深まりましたか。(理由)

1回目

深まった	共生をシェアハウスという例で考えることができたから。	中学生
深まった	先生方のお話を聞いて、共生社会の現状や課題を知り、様々な意見で交流し合い、自分に何ができるのかと考えることができたからです。	中学生
深まった	知らなかった地域共生のことについて理解ができたから。	中学生
深まった	講師の先生の話聞くだけでなく、自分自身で考え、交流することができたから	中学生
深まった	函館市の例をたくさんスライドなどで知ったので、より身近に感じることができた。	高校生
深まった	様々な共生、共生社会について知ることができた。	高校生
深まった	講義やグループワークを通して知識や考えをより深めることができました。	高校生
深まった	他の人の意見も聞くことで自分にはない視点から課題について考えを深めることができたから。	高校生
深まった	シェアハウスの事例をもとに課題を解決するにはどうすればよいかを話し、自分の考えを深められたから。	高校生
深まった	色々な人と意見交流をして自分の気づかなかったことについて知れたりしたから	高校生
深まった	グループワークを通して様々な意見を交換できたから	高校生
深まった	先生方の体験談からイメージがついたから	高校生
深まった	地域共生を理解する上で新たな視点で見ることができたから。	高校生
深まった	シェアハウス問題を通して様々なバックグラウンドがある人と一緒に生活する中でのルール決めにおいて大切なことを話し合えたから。	高校生
深まった	実際に共生するためのことを考えたから。	高校生
深まった	初めて出会った人と長時間真剣に考えることができたから。	高校生
深まった	今まで考えたこともなかったけど、実際考えてみてとても大切なことだと気づいたから。	高校生
深まった	函館にはいろんな人がいるとあらためてわかったから。	高校生
深まった	色々な人の意見をきくことができ楽しめたから	高校生
深まった	そもそも「地域共生社会」とは、という基本的な事項から説明があつて、その後の講演もわかりやすかったから。	高校生
少し深まった	共生の一部の例は知れたが知った上で考えると共生というのはもっと奥深いとわかったから。	高校生
深まった	ワークショップでのみんなの意見を聞いて様々な形の実現方法を知られたから。	大学生
深まった	話しあうこと、相手を知ること、知ろうとすること。	大学生
深まった	「共生」は今回のワークショップのように多世代の交流も含まれることを学んだ。それぞれに抱えている世界は異なるが、それは当たり前のことで、話し合いを通じて価値観を共有することが肝心のだと学んだから。	大学生
深まった	一つの問題について深く考えたり、色々なグループの発表で知識や考え方を吸収できたため。	大学生

深まった	普段お話をきけない人たちから講話をきけて視野が広がったから。みんなとディスカッションできたから。	大学生
深まった	これまでマイノリティの経験をしたことが少なく、もっと様々な環境に出会い、自分を見つけたいと思ったため。	大学生
深まった	外部の先生の専門的な話、みんなとの交流を通し知識が深まったと感じた。	大学生
深まった	共生とはサラダボウルで、個性と個性とかまぎって補い合いながら存在するものであるということが理解できたから。	大学生
深まった	「障がい者が地域の中で自分らしく生活していけるように」というイメージが強かったが、様々な側面があることを学べた。	大学生
深まった	バックグラウンドが異なる人たちとの共同生活の存在を知ることができたから。	大学生
深まった	講義やグループワークを通して地域間、年齢の違いなどをのりこえた上での地域共生について学べたから	大学生
深まった	グループワーク(話し合い)や講義を通して”共生”を私たちの生活に活かす、イメージすることができたから。	大学生
深まった	あらゆる形の地域共生の形を知ることができたから。	大学生
深まった	はじめに地域共生についての説明をしっかりといただけたから実際にグループワークを行ったことでよくわかるようになった。	大学生

## 2回目

少し深まった	話を聞くことができたからです。	中学生
深まった	共生することを実現するには、一人一人の力が必要であり、それを実現・実行する必要性があると感じることができたから。	中学生
深まった	地域共生社会へ向けての一つの例を見れたから。	中学生
深まった	色々な人の意見や話を聞けたから	中学生
少し深まった	共生についてのヒントは得れたと感じたが、共生が何かを完全に理解したとは思えなかったため。	高校生
深まった	地域には自分が思っているよりもたくさん問題があり、共生社会というのはこんなにも難しいということが分かった。	高校生
深まった	グループワークを通じて色々な人と意見を交換し合うなかで、考えを深めることができたから。	高校生
深まった	1回目で社会で生活する様々な人々を知り、2回目でその人々や社会についてより深い知識を得られたから。	高校生
深まった	実際に会社を立ちあげて地域や人々に貢献している立場からの「公共とは何か」が聞けたので、これからの活動に活かせる内容が多かった。	高校生
深まった	実際に”地域”という現場で働いている方のお話を聞くことができたから。	高校生
深まった	2回参加する中で、地域共生について、考え納得する場面が多かったから。	高校生
深まった	大原さんの実際の活動について知ることができたから。	高校生
深まった	自分の考えとはまたちがう考えを知れた	高校生
深まった	自分がこれからどのような社会で生きていくのかのイメージがついたから	高校生
深まった	今日の講話をきいて色々なことを知ることができたから	高校生
深まった	前と重なる部分もあれば新しい考えも知ることができたから	高校生

深まった	実際の取りくみを知り、深まったと思います。	高校生
少し深まった	高齢者、障がい者、子どもを分けない取り組みを知ることができた。	大学生
深まった	共生の難しさも感じたから。	大学生
深まった	共生することは弱い立場にある人に手をさしのべるのではなく、互いにケアリングすることなのだったと思った。	大学生
深まった	共生について、難しい内容であるが、考えることができたため	大学生
深まった	さまざまな意見の対立などがある中で、それをどう統合していくのか、一人ひとりの思いをないがしろにしないにはどうすればいいのかを理解することができたから。	大学生
深まった	ケアリングというケアする側とされる側が互いに支える存在になることを理解できたため。	大学生
深まった	実際に地域の活動にかかわる話を伺えたから	大学生
深まった	自分の考えにはなかった考え方・知識を学ぶことができたから。	大学生
深まった	今まで考えたことのなかったケアリングなどのことを知れたから	大学生
深まった	様々な人が共に生きている姿をみて、リアルに感じられたため。横断的なつながりの視点を再確認できたため、	大学生
深まった	「共生」について考える中で、様々な考え方や色々な人の価値観・想いに触れ、まさにこれが地域共生なのだと感じたから。	大学生
深まった	実際に共生社会実現のため行動している方のお話をたくさん聞くことができたため。	大学生
深まった	今まで福祉は一方方向の関係のイメージがあり、あまり興味がなかった。今回の大原さんの話をきき、福祉は両方向の関係であり、人と人が共生しあい、街も形づくっている様子を知り、福祉のイメージが変わった。	大学生

## 【10】今回のワークショップに関する感想や意見

### 1回目

最初にどうすれば本音を言い合えるかなど、教えてくださり、実感したことで具体的な問題にもわかりやすく参加できました。	中学生
初めて出会った人とお互いの価値観や考え方を共有し合い、1つのテーマについて考え、伝え合うことで、共生社会が生まれるということが実感できてとても楽しかったです。ありがとうございました。	中学生
知らなかったことが知れて勉強になった。	中学生
とても勉強になりました。次回もよろしくおねがいします。	中学生
自分は後半になるとあまり発言できなかったから、話し合いの難しさを実感し、良い経験になった。次回はたくさん発言できるように頑張ろうと思う。	高校生
世代を超えた交流たのしかったです！	高校生
グループワークに参加して、共生についてより学びを深めることができたのもそうですし、意見のまとめ方だったり、進行の仕方だったりも学ぶことができたのでとても良い経験になりました。	高校生
一人ではできない活動ができてとても楽しかったです。ありがとうございました。	高校生
今回のワークショップで、2つの講義を受けて自分の学びを深める中で、グループワークを行い、他者への意見を理解する力を養うことができました。	高校生

色々な意見を通じてこれからの自分の活動に役立てようと思いました。	高校生
話し合い活動がとても楽しかった！具体的な例をもとに様々なことを想定する大切さがわかりました！	高校生
こんなにまとまった時間で一つの論点を考える機会はありません、このような機会に出会えてよかったなと思った。	高校生
地域共生についての理解を増やすことやわかり合うためにできることをより市民に広めるために何をすればいいかやしているか気になりました。	高校生
初対面の方と話す機会に出会えて良かったです。少し自信がつかえました。	高校生
違う年代の方と話すことができ、とても貴重な時間でした。	高校生
年下年上関係なく意見交流する機会がないのですごく良い経験になりました。	高校生
とても参考になりました。ありがとうございました。	高校生
大学生や他の学校の人と交流できたし、函館の現状を知れた。	高校生
ありがとうございました。	高校生
意見を学生に求める際に、当てる人が偏らない方が良く考えた。(中学生の意見・高校生の意見を万遍なく聞いたかった)	大学生
中・高生とディスカッションできたのがよかった。この会が始まる前にこの会の主旨などあったらより良いのかなと思った。最初の講演は中学生にとっては難しいのかなと感じた。	大学生
高校生や大学生の意見がとても斬新で面白かった。	大学生
目的がもやっとしたWSだとなかなか難しいことがありました！何を目的に話し合うのか明示してもらえると助かります！	大学生
地域共生が今よりも進んでいくように、自分にできる最大限のことを行いたい	大学生

## 2回目

世界に様々な人々が生活している中で、自分が相手とどのように接していくかなどを考えて、これからの行動などを改めて考えられた。ありがとうございました。	中学生
ありがとうございました。	中学生
行動力がすごいなあと思いました。	中学生
色々な人の意見を聞いて視野が広がると共に、自分の考えにも気付くことができました。話し合いの時間(学生との)がもう少し長かったらもっと良かったと思います。	高校生
「共生」というテーマに関して、自分の考えを以前よりも深めることができました。ありがとうございました。	高校生
素晴らしい機会を設けてくださりありがとうございました。今回のワークショップに参加してよかったと思いました。将来の夢やこれからの生活につなげたいと思いました。	高校生
今後のボランティアや仕事をしていく上で、どんなことを考えながら取り組めば良いか考えることができた。	高校生
共生について深く考えたり、人の意見を聞く機会がなかったので、貴重な経験になった。もっと深めていきたいと思った。	高校生
内容が全体的に濃く、面白かったので、機会があれば参加してみたいと感じた。	高校生
とても勉強になりました。	高校生
障がいをもった人、もっていない人、自分の存在をうまく伝えられない子供などのみんなが共存していくために必要なことがたくさんあることがわかりました。	高校生

共愉という言葉をはじめ聞いていたのですが、とても良い言葉だなと思い、地域共生社会について探求したい、知識を深めたいと感じました。	高校生
とても勉強になりました。ありがとうございました。	大学生
できないことより、できることに目を向けることが大切という話が印象に残った。	大学生
もう少し時間を長くしてほしい	大学生
個人的に「自信をもって」という風な声がけに救われた。	大学生
質問が時間の関係でできなかったが、明確なニーズのない人、自分が何をしたいのかわからない人への支援・アプローチについて、方法論や考えがあれば聞いてみたかったです。すみません。	大学生
大原さんの質疑応答がとても有意義なものだったと感じる。質疑応答の時間をもっと増やしてほしいと思った。	大学生

### 【1回目】



### 【2回目】

